令和３年９月６日（月曜日）

日本工業経済新聞

【足立敏之議員】「砂防版八ッ場ダム」を評価／8月の大雨被災地を視察

大量の土砂を止めた完成前の金立川砂防堰堤

犀川の緊急復旧工事現場を視察

足立敏之参議院議員（自民党）は、8月下旬から9月上旬にかけて8月の大雨で被災した九州、富山県、長野県、岐阜県内を相次いで視察した。過去に例のない長雨に伴う長期の出水により、堤防の越水は発生しないものの各地で河川構造物等が被災した。一方で佐賀県が佐賀市の金流川で建設工事を進め、9割ほど完成していた砂防堰堤が竣工前にもかかわらず、今回の大雨で流出してきた大量の土砂を受け止めて下流の被害を減らした。

現場を視察した足立議員は、2019年の東日本台風で試験湛水中だった八ッ場ダムが下流の洪水被害を軽減したことを彷彿（ほうふつ）とさせるため「『砂防版八ッ場ダム』とも言える事例」と強調した。また、再度災害防止対策や防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策などを進めたことで「これまでの対策が効果を上げており、被害が相当程度抑えられている」とし、引き続き5か年加速化対策の予算を使いながら「しっかりと防災対策を進める必要がある」との考えを述べた。

長野県では、増水で橋脚部が洗掘されたアルピコ交通上高地線の田川橋梁や信濃川水系犀川の堤防欠損箇所、岡谷市の土砂災害現場などを視察した。犀川では地元建設業者が24時間体制で緊急復旧工事を行ったことにより「建設業の尽力で決壊が免れており、まさに『地域の守り手』の活躍で未然に災害を防ぐことができた」と感謝した。

他の視察先でも地元建設業者が応急復旧に尽力する姿を確認。地元建設業協会幹部らとの意見交換では、「地域の守り手」として活動するための予算確保が不可欠といった意見・要望が寄せられた。